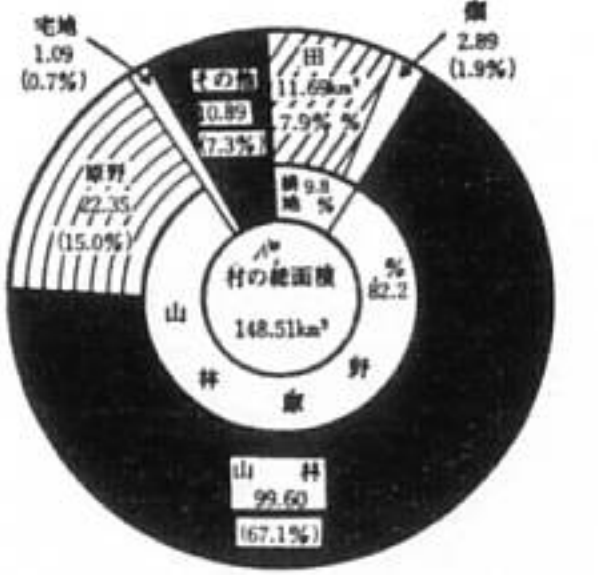




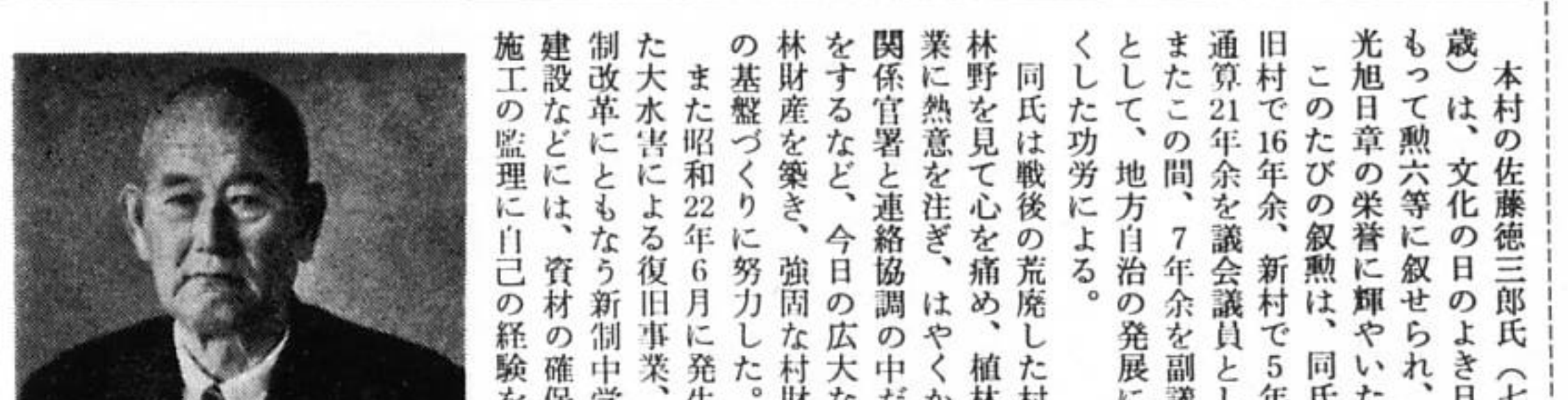
財政	
一般会計	313,744千円
特別会計	68,507千円
国保	56,455千円
内訳	黒診 799千円
	簡水 939千円
	玉財 583千円

世帯と人口	
世帯数	1,596世帯
人口	7,486人
男	3,678人
女	3,808人
前月に比し世帯は1の増 人口は7の減	

東由利村報

No. 149 1969・12・1

発行 秋田県東由利村役場 印刷 K K 本間印刷所
毎月1日発行(1部8円) 昭和42年7月21日第三種郵便物認可



村行 標的とらえたか 四力所で移動村民室

村の人びとの声に耳を傾ける。これは住民の利便をめざしている行政が、ねらいどおりにキヤッチされているかを知り手がかりであり、改善への足がかりとなるものである。

そこで村では、従来の役場が独自の判断で巡回日程を定めてする「押しかけ型」から、地域の希望による自主的な「盛りあがり型」に手段を変えて、移動村民室を行なっている。

まず7月19日には沼・杉森・舟木を皮切りに。8月27日にはスキーの大会を会場に、高屋・土場沢・下吹・宿部落にせめてリヤカーが引けるくらいに砂利をしいてくれという希望があった。

また、法内地内県道の改良は、村にとっても地域にとっても重大な関心事である。44年度の県予算には岩館から白山野橋間の二百弱弱があげられ、山野橋間の二百弱弱があげられ、つづれ地問題が障害となつて遅々としている。しかし村としては、年次計画によつても整備が進められるよう、県に働きかけを続けて行くが、さしあたって



若者は仲間、それを感じただけでも収穫だ

七、由利九、本村二の計七二人、平均年齢二〇・三才というバリバリの青年男女が参加した。まず全体を四つの分科会に別け、日ごろ意見を交わしたいと思つての種々の問題の中から題材をえらび、いわば好みの問題を拾ひあげて話し合うという、フリートキングで進められ性・結婚・出かせぎ問題・青年の生き方・過疎の問題などが話合われた。

その中から青年たちの意識をさぐると出かせぎ問題では、父親から自由になれた解放感。自分の職業について深く考える機会が得られる。そして、郷土の振興に悪影響。翌年の営農がおろそかになると反省している。また、最大の関心事である性と結婚をどう捉えるかでは、婚前交渉の是非論が出るかと思えば、それは一部マスコミの喧伝であり、安易に論じ合うようなものではないなど、感じ方の相違が浮きぼりされた。

佐藤徳三郎氏に叙勲 勲六等単光旭日章に

おした適切な助言を与え指導するなど、労を惜しまなかった。なお、昭和30年7月の新村誕生にいたる1年余は、合併促進協議会の委員として、両村議会と促進協議会の合併条件調整には、氏の物事にせよ、利便を確保することし、冬の横手線バスが一日三往復ながら確保されることになった。ただ、豪雪地帯のため本荘まで直通するのではなく、老方、横手間の単運行であり本荘への乗客は乗り継ぎになる。

横手バス線を確保

世しな、らい、落な、しかも、んなこみいった、場でも、たまた、ち和やかにして、しまし持ち味を、利してまともめ

写真は、佐藤徳三郎の晴れ姿

固定資産税四期



人工授精師の運営をスツキリさせよ。例えば、同運営委員会が「足しろ」は農家から徴収しない取り決めでいるのに、冬期間には手がまわらない現況なので、副業に入る人でもよい、地域に一人の人工授精師を配置できないか。

また、畜産指導員を置いてほしい。技術向上のため講習会のような研修の場をつくってほしい。このほか、畜産行政は単に多頭飼育、いわゆる頭数をふやせば行政効果があったとする姿勢に陥りかねば。量よりも質でいかなればソロバンに乗らないといふ実の指導があるべきだし、農協などには牛の販売方法にまで世話を惜しまない親身な指導体制がほしいものだ、などの意見が出された。

移動村民室など住民と語り合ったなかで、行政が受けとめられていた一角を知った。そこでナマの声をどう生かすかなど、今後をさぐる議会産建委員等懇談会を開き(11月4日)①道路維持補修②牛の人工授精③土地改良④除雪対策⑤米作をめぐる情報交換を話合った。

まず道路の維持で、今後の需要に際しては、往診料は飼育農家から徴収しないという申し合わせが破られており、これらが農家の不満になってハネ返っている。これをどう改善して行くかが、話題の中心であった。

成牛の頭数、村の地形などから、現員二人の人工授精師で今後の需要に際しては、往診料は飼育農家から徴収しないという申し合わせが破られており、これらが農家の不満になってハネ返っている。これをどう改善して行くかが、話題の中心であった。

授精師増イコール料金改定は必至

村内での自由開業を許可すれば、どんな影響が予測されるか、まず授精料金が他町村に値上げされようし、奥地の飼育農家には割増し料金(旅費加算)というかたちが考えられる。

現況は、村、両農協、農業共済の四者が提携、運営委員会を組織してあつており、和牛二千円、乳牛二千五百円の郡内一安いの授精料金がサービスしている。

参考、人工授精師協会由利支部がしている、協定料金をみると、和牛、乳牛とも三千円であり、これは隣村大内と同額である。

いつでも、という需要に応じられる場所だからである。このように道路は、われわれの生活が、営められるか否かの「かなめ」になっているのである。

国、県、村道の別なく、もともとそれは、われわれ一人一人が共有の財産である。自分のものであるからには、日ごろのいたわりが大切である。道路の輪たちが、水路のような流れになつていて、ところもある。誰かが田んぼの隅にでも、側溝に水を落して、れたならば、歩く人も気持ちよく、道も長生きしてくれるはずである。

当節は、ともすれば国が果が村が悪いからと、悪いのはすべて他人のせいにしてしまふ風潮であるが、自分自身は社会人としての働きを忘れない、このことの復活を急ぐべきである。

年の瀬、火の用心

気ぜわしい師走。だが火気への注意は手をぬけない。

往時の兄ンコぶり 道路補修にひと汗

木村の田代地区老人クラブ(福寿会、会員数五〇人、渡辺福蔵会長)では、小春日の11月8日、地域内県道の路面補修に汗を流した。

これは、何しろ高齢者の奉仕作業だけに、健康上の制約もあつて全員参加とまではいかなかったが、それでも十数人が往時の「兄ンコ」"アネツコ"に返つたかと思われ、元気で、見る見るきれいにな道に変えていった。

……道路と人間の関係を考えてみよう。

われわれの住家は、大抵が道路に面して建てられている。このことは、生活物資がより便利に得られるからである。また夜中に「火事」という声でも聞くと、道路に飛び出すのが常識だ。これはそこが、より確かな情報を伝えているからである。

